

“いわて復興だより”ダイジェスト



いわて復興だより

「いわて復興だより」は、多くのご支援に対する感謝の気持ちを込め、岩手県の復旧・復興状況について発信することを目的に、平成23年7月1日の創刊以来、月2回(1日・15日)発行し、「いわての今」を伝えています。

また、平成25年5月より公開している「いわて復興だよりWeb」では、動画と写真たっぷりに復興状況を生き生きと伝えています。

問合せ先
 復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だより [検索](#)

いわて復興だよりWeb [検索](#)

H23.10.15 第7号

宮古水産高 北大の支援で乗船実習へ

船を失い乗船実習ができなくなった県立宮古水産高に船を派遣。練習船「おしよる丸」を無償貸与した北海道大学水産学部へ感謝の念。

H23.11.1 第8号

岸壁に乗り上げた貨物船を撤去

釜石港の岸壁に乗り上げた100mもの大型貨物船を撤去。7か月ぶりに海に下ろされた貨物船「アジアシンフォニー」は、修復のために広島へ。

H23.12.15 第11号

復興へ向け金澤翔子氏の作品をロゴに

「三陸復興」を新たなシンボルに。復興への機運醸成のため、女流書家金澤翔子氏の作品をイベントや広報媒体などで活用。

H24.1.1 第12号

ショッピングセンター 営業を再開

津波被害で閉鎖していた大槌町のショッピングセンターが、平成23年暮れに営業を再開。地元店を含む約45店舗が入居、約300名の地元雇用が生まれた。

H24.6.1 第21号

“東北六魂祭 2012盛岡”

魂を奮い立たせ震災を乗り越えようと、前年の仙台に続き盛岡で開催。パレードでは、東北6大祭に加え、地元盛岡市から盛岡秋まつりの山車も参加。

H25.7.15 第44号

田野畑村で サケふ化場の竣工式

田野畑村で行われた新たなサケふ化場の竣工式。施設は隣接する普代村と共同利用し、毎年約1,200万匹の稚魚を育成し、来春に放流。

H26.3.1 第59号

JR釜石線「SL銀河」 4月12日から運行開始

JR東日本盛岡支社は、観光面からの復興支援と地域活性化のため、釜石線(花巻駅～釜石駅間)でのC58型蒸気機関車「SL銀河」の運行開始を発表。

H24.2.1 第14号

“奇跡の一本松”の苗木が 名古屋へ

3年後をめどに名古屋市動物植物園に移して育てることで河村名古屋市長と戸羽陸前高田市長が合意。苗木のほか市職員の派遣継続も決定。

H24.9.15 第27号

“希望の気球プロジェクト”

陸前高田市の小友小学校で、復興の進む街を熱気球から子どもたちが見るプロジェクトを実施。子ども達からは「空を飛んでみたいだった」などの感想が。

H25.9.1 第47号

“109KAMAISHI”が 期間限定でオープン

若い女性を中心に人気の東京・渋谷のファッションビル「SHIBUYA109」が釜石に出店。期間限定の店名は「SHIBUYA109 KAMAISHI」。釜石の女子中学生の手紙がきっかけ。

H26.5.1 第62号

大船渡市新魚市場が完成

新魚市場は4階建。衛生・鮮度管理の体制とシャベット海水を作る製氷施設が特長。また家族で楽しめる展示スペースや見学デッキ、展望デッキも設けられ、観光の新拠点にも。

H24.3.15 第16号

震災後一年を迎え県と 陸前高田市が合同追悼式

震災から1年目の3月11日に県と合同で陸前高田市が追悼式を開催。遺族ら3,000人以上が参列。

H25.3.1 第36号

三陸鉄道 新型車両の安全祈願祭

大船渡市の南リアス線運行部車両基地で行われた新車両の安全祈願祭。クウェート国からの支援資金で製造された車両は、南リアス線盛岡～吉浜駅を運行。

H26.1.1 第55号

大槌中学校生徒会が “派遣職員に感謝する会”開催

全国の自治体や企業から来町した皆さんへ感謝の気持ちを伝えようと同校生徒会が発案。生徒会長の新田亮介君は「皆さんの笑顔が見ることができたので嬉しい」と語る。

H26.8.1 第68号

吉里吉里海岸海水浴場が 4年ぶりに復活

本格的な海水浴シーズンを迎え、本県の海水浴場が、新たに3ヶ所復活。大槌町の吉里吉里海岸は、釜石・大槌地域で震災後初の海開きとなった。

県外へ避難している皆さまにも「いわてグラフ」や様々な支援情報とともに送付しています。岩手県公式ホームページへの掲載のほか、東京、名古屋、大阪、福岡の各県外事務所、アンテナショップ「いわて銀河プラザ」でも配布しています。